東京大学理工学研究所報告

第 5 卷 第 1 號 (1949-1)

田中、和田大輔、〇岩崎健二。Pb イリー 4/6 塩化银に
おける減光感度成及び感度変温の感度率、感度度に及
ぼす影響をへらべた。

2-24。 再結晶表面組織の研究（第 2 番）(10) 五
弓勇雄。高加工度の塑性をせる鋼板を再結晶させると
(100) (001) 方位に基づく立方体組織を呈する。この
模様について説明する。

2-23。 集合結晶現象の研究（10）五弓勇雄。一次
再結晶を終了後更に高温において集合結晶が行われる
この模様（主として成長吸葉板状）についてのべる。

2-26。 冷間延性変態鋼板の研究（第 3 番）(10) 五
弓勇雄。 従来の高加工度及 1000℃以上の焼なましによ
る変態鋼板の良異方性の生する模様を明らかにし、そ
の模様から 1000℃以上の焼なましの代りに高加工度の塑
延と 800℃の焼なましによって従来のものより優秀な異
方性をえたされる結果について報告する。

2-27。 電解で発生した気泡と隔膜（10）松村武雄。水
電解において発生する気泡の大きいを観察した。つ
ぎに気泡が隔膜を通過するときの状態を観察し、隔膜
のそれに関するべき条件等を検討する。

2-28。 グリセル製紙に関する研究（第 1 番）(20)
〇大川義朗、牧島英二。過酸化鉄溶波のフロムゼラチ
ン層への浸透作用を化学電池の E.M.F. によって実
験した結果の報告である。

2-29。 キトボンの光学変（10）橋正治。前報に
引き続き化学変物に数種の白色粉末物質（塩酸パラウム、
塩酸カリウム、酸化亜鉛、鉄砂石）を種々の割合に
て混合し、外線照射による黒化度にそれらの混合物が
及ぼす影響及びキトボンの黑化との比較につき述べる。
又キトボンの粒子の大小及び LnS の Ba 蒸気処理が
黑化に及ぼす影響について述べる。

2-30。 長波長外線による発震放電発光（20）〇柄田
武、牧島英二。放電放光鉱石と化学変物系その他の変光
経と組合わせた白色変光発光に関する試験結果を報告する。

2-31。 混合溶媒に於ける発電伝導と溶媒現象（18）
〇杉山信太郎、牧島英二。水、アルコール混合溶媒に
おけるアルカリ塩の溶度度の測定値より変化エ
ントロピーを算出し、混合溶媒における溶媒和の模様
を論ずる。

2-32。 ミノール溶波の電解変光（20）〇尾間義
文、牧島英二。アルカリ性ミノール溶波の酸化変
位と放光の変強の関係を求める変態放光の場合と比較考
察した。

2-33。 溶解現象の制御効果が研究（20）牧島英
二、杉山信太郎、〇早川宗輔。イオンの溶媒和の機
構を推定して溶媒のエンタルピー、エンタロピーを算
出し、変態度の溶解現象を論ずる。

2-34。 沸料の色調に関するトポケミストリー（18）
久野洋、〇鈴木英三。種々の酸性より放熱した硫化カ
ドミウムの色調の差異を分光反射率の測定によって検
定し粉末性を論ずる。

2-35。 沸料混合のトポケミストリー（10）〇久野
洋、鈴木英三、松堂知子。性質を異にする亜鉛とカ
ーボンプラックとの種々の混合物の分光反射率を測定
した。この結果を組成の粉末性及び酸化物を混合
する場合の重なり合いの確率の立場から考察した。

2-36。 ガス流速による沸料変位の確認（18）尾間
義、〇鈴木英三。バーナー法により正ヘプタン 1、
イソオクタン（II）、ペンゼン（III）、トルオール
（IV）、アルコール、イソプロピルアルコール、アセトン
等の沸料を測定した。沸料速度はガス流速により
著しく変る。沸料速度は（III）＞（I）＞（IV）＞（II）
となる。

2-37。 セタンオイルの酸化誘導期間について（15）
永野洋一。セタンオイルの酸化を前の方法（常圧 120
℃）で行い、誘導期間の酸素吸収速度及び過酸化物等
を測定した。誘導として（i）金屬石銅、（ii）Kmno4
（各 0.1%）を加へ（i）、の場合過酸化物を有する
一酸化炭素に達して後続だ増加を示す事、（ii）、の場合
は生成した過酸化物が直ちに分解される事及びアルド
ヒドは何れの場合も過酸化物と増減を同じくする事を
確認した。

2-38。 影酸化中的タダミンAの分解について（30）
永井雄三郎、竹内靖弘、〇菅本幸子。空気及び酸によ
る酸化酸中のビタミンAの分解について研究した。

2-39。 肝油の分子蒸発に関する研究（2）永井雄
三郎、山崎雄、〇竹内靖弘。分子蒸発の装置の整立て
を経えたので、三二の肝油について蒸発を行った結果
を報告する。